



たちかわし環境ブック 2011

～特集：食器再使用システム～



表紙の写真紹介

表紙の写真は、真中上が9月の防災訓練で食器を利用している様子です。どんぶりとスプーンを利用してカレーを提供しています。左側は、秋の樂市での煮沸後に食器を乾燥させている様子、右側は、同じく秋の樂市で食器を使っている様子です。トン汁ややきそばなどを再使用食器で食べています。真中下は貸し出し食器の例です。

特集でも取り上げた再使用食器の貸出は、さまざまなイベントで行われています。イベントでも家庭でもごみを出さない工夫をしていきましょう。

はじめに

立川市では、第3次環境行動計画の目標達成に向け、市民・事業者・市が連携・協働し取り組みを進めています。その状況について「たちかわし環境ブック」で進行管理し公表しています。

市では環境問題を考える場合、まず足元の身近な環境に目を向け、環境の大切さを感じていただくことが重要であると考えています。

今回のブックの特集は、「食器再使用システム」です。地域で行われるさまざまなイベントでは、使い捨て食器の使用が多く見られます。そこで、市では平成23年度より市民との協働により各種団体などに無料で再使用できる食器を貸し出しするシステムを作り、ごみ減量施策などの一環として取り組んでいます。

第1部では、平成22年度に策定された立川市第3次環境行動計画などに目標として掲げられた数値により、立川市の環境について「今」と「過去」の変化をご覧ください。

第2部では、市内で環境保全活動に一生懸命取り組んでいる市民や事業所の方々の活躍を掲載しています。

資料編では、市内の大気汚染や水質などの調査結果を掲載しております。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により、東北地方はもとより関東地方まで放射能の影響があったことや、電力不足による節電対策など新たな環境問題も起きております。市では、市民の放射線に対する関心が高いことから、公共施設等の空間放射線量の測定をしておりますので、その結果を掲載しています。

この環境ブックをご覧になってあなたにできる環境問題への取り組みのヒントを探してください。そしてあなたの活動を教えてください。ご意見をお待ちしています。

終わりに、発刊にあたり、ご尽力をいただいた環境審議会委員の方々や数多くの活動報告をお寄せいただいた市民・事業者の皆様にご心よりお礼申し上げます。

立川市

環境ブック 2011 の発刊に寄せて

「たちかわし環境ブック」の発刊は、2006年版から数えて5回目になります。市の環境行政と市民による環境保護活動の記述が、的確さと多様な視点を加え、地域社会立川にふさわしい内容に達していると評価します。

願わくば、一例として第1部「数字で見るたちかわしの環境」に記されているように、何故農地や緑被率が減り、保存樹木が失われていくのか、目に見える現象の背後にある、法律や規制などの仕組みまで踏み込んだ説明を望みたいものです。

「環境ブック」の目的は市民と市議会に立川市の環境の現状を説明し、市がとった対策の効果と及ばなかった「問題点」を明らかにすることです。

現状の環境ブックはこれらの問題点を主に数字で説明するにとどまり、何故環境基準が達成されていないのか、構造的な原因はほとんど記されていません。

例えば二酸化硫黄も一酸化炭素も年平均値は「良好な状態で推移」していますが、それらの有害物質が混じり合い、天気の状態によって発生する光化学オキシダントの濃度は「環境基準である1時間値0.06ppmを超えた延べ時間数、延べ日数は平成22年度は645時間、106日」を記録しています。

自動車や工場からの排出が原因の大気汚染物質は、広域の複合汚染をまねき、まだ安心できる水準には到っていないといえるでしょう。「光化学スモッグ注意報の発令基準である0.12ppmを超えた延べ時間数、延べ日数は平成2年度は25時間、9日」を記録、「日照時間の少ない冷夏の年や夏の季節風の強い年には大きく減少します。」（第1部数字で見る立川の環境）とされています。しかし逆の気象条件の夏はどうなるのでしょうか。また、光化学スモッグは中国大陸からも飛来しているのです。

「環境問題」とは何か、私たち自身が知識を深め、問題意識を持ち、生活流儀を改め、環境保護を国際的なスケールでとらえて行く、手がかりとして環境ブックを活用したいものです。特集「食器再利用システム」は、そのモデルを足元から示していて参考になります。

第2部「市民、事業者の活動」に紹介された立川市民の環境意識の水準と実行力は、心強さをもたらしてくれます。

「玉川上水の自然保護を考える会」や「立川ホテルの会」の努力によって、玉川上水や市内の旧用水路にホテルが舞う日が近いことを確信しています。

立川市環境審議会会長 原 剛

環境ブックの作成にあたり、ご意見をいただいた、第8期立川市環境審議会の委員は下記のとおりです。

大霜 俊夫、久野 春子、小松 清廣、斎藤 正雄、武田 好史、中村 恭之、
早川 美穂（副会長）、原 剛（会長）、牧谷 昌幸、溝渕 浩一、村田 政則〈五十音順〉